

ゆたかな労働と 生活の場をめざして

発行. 社会福祉法人ときわ会 〒187-0032 小平市小川町 2-1159 番地
URL <http://www.asayake.or.jp>

あさやけ
だより
No. 489

あさやけ作業所	小平市小川町 2-1159 番地	TEL 042-345-4575
あさやけ第二作業所	小平市小川町 2-1159 番地	TEL 042-345-1564
サンダリー	小平市小川町 1-943 番地	TEL 042-345-1585
あさやけ鷹の台作業所	小平市小川町 1-411 番地	TEL 042-346-2167
共同ホームつくしんぼ	小平市小川町 1-944-30 番地	TEL 042-342-7550
共同ホームこげら	小平市上水南町 2-21-17 番地	TEL 042-325-8716
共同ホームサンライズ	小平市小川東町 5-2-11 番地	TEL 042-346-0472
地域生活支援センターあさやけ	小平市小川東町 4-2-1 番地	TEL 042-345-1741
	小平元気村おがわ東 1 階	
共同ホーム一歩	小平市花小金井 7-2-24 番地	TEL 042-349-0306
あさやけ鷹の作業所	小平市中島町 3-8 番地	TEL 042-349-2366
共同ホームはやぶさ	小平市小川町 1-497-13 番地	TEL 042-313-6269
共同ホームさらさ	小平市小川東町 5-2-12-1 番地	TEL 042-313-2217



休日にホームから小金井公園まで玉川上水沿いを歩いて散歩しました。写真は公園の中にある江戸東宮だてもの園でひと休みしているところです。

散歩

共同ホームこげら

「作業所に通える共同ホームを」「地域で自立生活をした
い」という願いを実現するためにできた共同ホームとして、
一九九五年十一月二十日、上水南町の地で、「こげら」がスター
トとしました。安全に安心して、気持ちよく生活できるホームを
基本に、九十五年。こげらの生活が続いてきました。

○やる気が少し疲れ気味、飲料・食べる事大好き、口腔ケアが
欠かせなくなつた十六年半在住の五十八歳、男性。

○最年少三十四歳、自由に一人で外出したいのにコロナ禍の中
で苦悩しています。十年在住の男性

○ショッピング大好き、移動支援を受けての休日を楽しんでい
ます、ただ一人の女性、入居四年になりました。

良い事も、そうでないことも、

たくさんある毎日の生活です
が、一番の交流の場となつてい
る朝、夕一緒に囲む食卓は、何
より大切なひとときです。コロ
ナ対応の制約はありながらも、
和んで、美味しいそうに残さず
平らげてくれる時など、援助者

共同ホームこげらの二十五年間を振り返って

共同ホームこげら
中川 和子

も応援に入り、朝、夕、夜の援
助体制も学生アルバイトやパー
ト職員の毎日の日程が細かく組
まれ、日曜から土曜日まで、ホー
ムの生活は活気良く過ぎていま
した。一人体制の中で、連絡・
伝言・日々の記録など、こげら

の日記が重要な情報共有手段でした。今、その分厚い二十五冊
の日記が、どーんと書庫にたまっていて、ホームの歴史に感嘆
させられます。

現在入居している五名の暮らしぶりはというと、
○ひたすら我が道をゆく最年長六十二歳の男性は、こげらと同
じ二十五年在住。
○十九歳で入居、仕事への意欲は増々、自立をめざして、十七

も、うれしくて励まされる場でもあります。
多くの喜びや、やりがいをもたらしながら、関わってこれた
二十五年間を思う時、反面、多くの課題や、不備な事に直面もし、
そのたびに、援助者みんなで話し合い、乗り越えながら、続け
てこれたと実感しています。これからもこげらが、さらなる進
化したホームへと向うことを願い、微力を尽くしたいと思いま

仲間紹介

ひとりひとりが太陽



やりがいのある仕事を続けたい

林 博輝さん

(あさやけ第二作業所)



以前、精神科の主治医に「働きたいです。」と相談しました。病
気と引きこもりで、人と喋る事に
慣れていなかた自分が薦められ
たのは、病院のデイケアに通う事
でした。デイケアで自分と同じ状
況で同じ趣味の人と話したりス
ポーツを楽しんで、他人と同じ空
間にいる事に慣れていきました。
家庭内では孤独だったので、友
人との交流に通う内に昔からの友人
のように仲良くなりました。

あさやけ第二作業所に行くよう
になったのは二〇一九年の夏ごろ
です。初日はとても緊張していた
のを覚えています。でも、同じデ
イケアに通っている人が二人いた
ので、少しホッとしました。作業
所での仕事は主にチラシの挟み込
みをしています。仕事を通じて学
んだのは、丁寧な作業と責任感、
それと思いやりだと思えます。作
業所の仕事や行事に参加している
内に少しずつ挨拶や雑談ができる
友人ができました。

真面目に作業所に通っている内
に、職員の方から介護老人保健施
設での仕事を紹介されました。以
前から就労を希望してしまし
たが、介護にあまり良いイメージが
無かつたので、辞退しようかと
思っていました。でも、職員の方
から熱心に薦められて気が変わ
り、面接を受けてみる事にしまし
た。今、母親と二人で暮らしてい
ますが、将来の事を考えると、介
護の仕事で学べる事があるんじや
ないかと思うようになりました

結果は採用され二〇二〇年の六
月から働いています。最初は、施
設の利用者さんが、お風呂から出
た後の服や下着などを袋に入れて
所定の場所を集める仕事です。女
性の利用者さんに怪しまれる事も
ありましたが、今は顔馴染みにな
り雑談をたまにしています。

慣れてきた頃に勤務時間を増や
して、利用者さんのベッドのシー
ツ交換の仕事もするようになりました。

腰痛で苦労する事もあります
が、やりがいがある仕事なので
ずっと続けていきたいと思ってい
ます。



・**名前の由来**
小平市の鳥は、コゲラです。キツツキの一種で、市内では玉川上水付近によく見られるとのこと。小平にずいといと住みつくことができるようにとの願いをホームの名称に込めています。

・**入居の推移**
これまで十五名(男性十名、女性五名)の方がこげらを利用しています。入居の年齢ですが一番若い人が十九歳で、平均の入居年齢は三十七歳になります。十名の方が退居していますが、理由は施設入所三名、他のホームに移った二人、家庭に戻った人四名、亡くなった方一名になります。

・**本日の開設日は**
これまで記念誌などでは十二月に開設と記載してきましたが、本日の開設日は、十一月二十日です。あさやけ作業所の職員が総出で、二名のホーム職員と一緒に船出したホームを支えました。生活寮の指定を受けたのが十二月一日だったためです。

二十五年のあれこれ



・**緊急一時保護の利用**
いちよの会の緊急一時保護の受入もしていました。作業所の送迎車で来て、ホームで過ごして翌朝作業所に行くことですが、作業所で泊まるより食事もお風呂もあり快適でした。ホームの人たちもお客さんを迎え、普段と違う日だったようです。

・**建物設備関係**
二階建アパートの一階をホーム用に設計したのが「こげら」です。賃貸物件ですが障害者のグループホームですので、入居者が暮らしやすいように手すりの設置、浴槽取替、近所に音が漏れないよう二重サッシする改修も行なってきました。二年前に小平市の補助金でパッケージ型自動消火設備も設置しました。



鈴木 操

・**自立を目指して**
障がいとは何でしょう。障がいの支援とは？
十六年前に夜勤職員の居ない「こげら」に思い切ってお世話になりました。

まだまだ自分の身辺に関心の無い息子でしたので、指示されたことに従いとも順応してくれました。本人も褒められることが嬉しくて楽しい生活が続いていました。このまま続くのかと思っていたところ、国の福祉制度がいろいろの意味で変革していきました。

障害のとらえ方も社会化モデルになり、総合支援法でGHも一元化し障害者の意思決定支援の在り方が問われ、障がいがあっても本人重視の豊かな生活を求めることが可能になってきました。私自身も勉強をし、息子を一人の成人として見ようと努力してきました。

障がい者虐待防止法・差別解消法など更なる制度が出来てくると、尚更今の息子の生き方は？と考えさせられました。ときわ会の長い歴史の中、こげらが継続出来ていることは必要とされてきたことではありますが、利用者個々の自立や豊かな生活に近づけたでしょうか。親も含めた支援者側の見方も社会に合わせて自問していきたいです。

家族から



野口 正夫

・**一人で出来るように**
父九年前、母五年前に亡くなり、「こげら」にお世話になった経緯、両親の気持ちについては推測になります。昭和三十三年に弟修が生後直ぐに障害を持ち、いろいろの方に相談し、慶応大学病院にも行き、収入と支出が合わない中で、苦勞していたと思います。養護学校に通い、お友達も出来て、弟なりに楽しい学校生活を送っていたと思います。自宅では自転車に乗れるようになり、交通事故で入院する事もありました。山形にスキーに行き、怪我をして入院したこともありました。作業所の旅行も楽しみにしているいろいろな場所に連れて行っていただきました。そのような中で、将来生きていくために、出来る限り親を頼らず、一人で身の回りのことを出来るように考えて、こげらの生活を両親は選んだと思います。お世話になり、一人でバスにも乗れるようになり、自宅へ週末帰って来られるようになりました。今では、コンビニで何か買物することも出来るように成長しました。弟も還暦を過ぎ六十二歳になって、老眼、入れ歯と年相応に老化しているように思います。今後を考えますと、こげらでの生活を何年出来るのか、これから何歳まで自立して生きていけるのかを考えます。



厨房改修工事が終了

共同ホーム一步

キッチンが新しくなって、調理をお願いしている「たすけあいグループひまわり」のヘルパーさんに感想をいただきました！

新しいキッチンになって良かったことを聞きました。

- ・ 広くなったので動きやすくぶつからなくなった
- ・ 作業台が広くなって置き場所が増えて配膳しやすくなった
- ・ IHになってコンロの掃除がしやすくなった
- ・ 食品ストックがわかりやすくなった
- ・ 食器が出しやすくなった
- ・ 広くなって仕事がしやすくなったので時間に余裕が出た
- ・ 調理台が広くなり使いやすくなった
- ・ 流し台が高くなり腰が楽になった
- ・ 台所が明るくなり気持ちよくなった

とても綺麗で使いやすい明るいキッチンになりました。いつまでもこの状態を保てるようがんばります。

ひまわりの栗原・中山・田中さんから



共同ホームこげら 25周年

1995.11 - 2020.12

仲間と仲良く生活

息子が入居してから十六年になります。真夏の暑い七月二十八日でした。さいたま市に住む弟が遊びに来た時、何気なく所長さんから共同ホームこげらに入居を勧められていたことを伝えましたら、顔色を変えて今から入居に必要なもののリストを書くように言われ、先ず大物の家具を所沢の大川家具屋さんに行きました。お店に入るなりこのお店で一番高いベッ



ドはどれですかに始まって、三角コーナーの家具等を購入しました。親の心境は一番高価な物を揃えました。母の手元から離す、息子に精一杯してやりたかったのです。息子を入居させるにあたって、母親の前に座らせ、本人の手を握り「お母さんもしずれおばあさんになって、面倒を見られなくなるので、こげらに入って、仲間と仲良く生活して頂戴」と言いましたら、本人は「ハイ」と言ってくれました。現在親類で一番長生き

しているは私だそうなんです。これも息子のおかげかなと思っております。

坂田キミ子

心地良い場所

息子が「こげら」に入居して早十年になります。入居した当時を思うと、息子自身も私達親も、日々の生活に必死で慣れようとしていた毎日でした。「こげら」入居というチャンスを与えて頂き、かわって下さる多くのスタッフの皆様のおかげで、自立の一步を踏み出すことができ、成長させて頂きました。できない事には援助して頂き、そうじ、洗たく、洗たく物のとりこみ、雑なようですが、洗たく物をたたんでしまう事もできるようになりました。週末以外は「こげら」で過ごすという生活がごく普通の日常になり、息子にとっては自宅と同じように「こげら」は心地良い場所、なくてはならない場所になっています。談笑とまではいきませんが、気の置けないいつものメンバーがいて、いつもの席に座り、食事をしたり、散歩にでかけたりと、そんな日常

を安心感をもって過ごしている事だと思います。日々健康で安全にごす事ができるよう、見守ってくださるスタッフの皆様のおかげで私達親も安心していられるのです。スタッフの皆様には感謝しております。まだしばらく、援助していただきながら、「こげら」でお世話になります。少しずつ、一人でできる事をふやしながら。

今村 恵子



あさやけ鷹の台作業所 自主製品紹介 織りたてのマフラー

今までになかった新しい色の、織りたてのマフラーができました。ゆったりサイズのレギュラーと、軽く巻けるショートの種類です。なかまちテラスや農協でもお買い求めいただけます。ぜひ手作りのあたたかさを感じてください！



レギュラーサイズ 約180×18cm 5000円
ショートサイズ 約125×15cm 3500円

今年も毎月の廃品回収にご協力ありがとうございました！

～年間の回収量は91トン（2019年12月～2020年11月）でした～

2020年資源回収回収量

単位/kg

	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	合計
新聞紙	8,180	5,250	6,250	7,370	中止	中止	11,140	3,550	9,650	4,020	7,460	62,870
雑誌	2,620	1,750	2,180	2,790			3,680	1,030	2,840	1,370	2,578	20,838
段ボール	930	500	660	790			1,330	420	920	650	840	7,040
ウエス	135	30	70	50			170	50	110	50	140	805
合計	11,865	7,530	9,160	11,000	0	0	16,320	5,050	13,520	6,090	11,018	91,553

※年間回収量は4月と5月の廃品回収がコロナ感染の広がりで中止した影響が大きく、2019年より28トンの減でした。

廃品回収のお知らせ

11月の廃品回収の回収量は11,018kgでした。内訳は新聞7,460kg、雑誌・ダンボール3,558kgです。収益は134,879円でした。

今回は1月16日（土）が回収日です。

雨天の場合は中止とさせていただきます。